

Week of April 27, 2025 - My Reward　　Small Group Lesson 20

知り合う

報いを得るために一生懸命努力したけれども、それを手にするまで長く待たなければならなかった経験はありますか？ その努力を後悔し始めたことはありましたか？

聖句　コリントの信徒への手紙一 9:1-18（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

1:私は自由な者ではないか。使徒ではないか。私たちの主イエスを見たではないか。主にあるあなたがたは、私の働きの実ではないか。2:他の人々にとって私は使徒でなくても、あなたがたには使徒です。主にあるあなたがたが、私が使徒であることの証印なのです。3:私を批判する人たちには、こう弁明します。4:私たちには、食べたり飲んだりする権利がないのですか。5:私たちには、他の使徒や主の兄弟たちやケファのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのですか。6:あるいは、私とバルナバだけには、働かずにいる権利がないのですか。7:一体、自費で兵士になる者がいますか。ぶどう畑を作って、その実を食べない者がいますか。羊の群れを飼って、その乳からできたものを食べない者がいますか。8:私がこう言うのは、人間の思いからでしょうか。律法も言っているではないですか。9:モーセの律法に、「脱穀している牛に、口籠をはめてはならない」と書いてあります。神が心にかけておられるのは、牛のことですか。10:それとも、私たちのために言っておられるのでしょうか。もちろん、私たちのためにそう書かれているのです。なぜなら、耕す者は当然、望みを持って耕すべきであり、脱穀する者は分け前にあずかる望みを持って脱穀するからです。11:私たちがあなたがたに霊のものを蒔いたのなら、あなたがたから肉のものを刈り取るのは、行き過ぎでしょうか。12:他の人たちが、あなたがたに対するこの権利にあずかっているのなら、私たちはなおさらそうではありませんか。しかし、私たちはこの権利を用いませんでした。かえってキリストの福音を妨げないように、すべてのことを耐え忍んでいます。13:あなたがたは知らないのですか。神殿で働く人は神殿から下がるものを食べ、祭壇に仕える人は祭壇の供え物にあずかります。14:同じように、主は、福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の糧を得るようにと、命じられたのです。15:しかし、私はこれらの権利を一つも用いませんでした。こう書いたのは、自分もそうしたいからではありません。そうするくらいなら、死んだほうがましです……。私のこの誇りは誰も奪うことができません。16:もっとも、私が福音を告げ知らせても、それは私の誇りにはなりません。そうせずにはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、私には災いです。17:自分からそうしているなら、報酬を受けるでしょう。しかし、強いられてするなら、それは、委ねられた務めなのです。18:では、私の報酬とは何でしょうか。それは、福音を告げ知らせるときに無償でそれを提供し、宣教者としての私の権利を用いないということです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか？

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1:1〜6節で、パウロは使徒としての自分の権利について語っています。彼が持っていると主張している権利には、どのようなものがあるでしょうか？

2: パウロは、兵士、農夫、羊飼いといった日常生活の例や、旧約聖書の「脱穀している牛に口籠をはめてはならない」という律法 (7〜11節) を用いています。こうした例を通して、働く人々についてどのようなことを伝えようとしているのでしょうか?

3: 12〜18節では、パウロが自分の権利をいつも行使しているわけではない理由を説明しています。彼が完全な支援を受けることをあえて選ばない主な理由は何でしょうか? また、彼が代わりに「報い」としているものは何だと彼は述べているでしょうか?

分かち合い

話し合い　その１：

武先生が語った話の中で、ある人がTBCの牧師たちが給料を受け取っていることに不満を持っていました。おそらくその人は、牧師たちも「お金目当てなのでは」と考えたのでしょう。しかし、私たちが読んだ聖書箇所に基づくと、この人の考え方はパウロの教えとはどのように違うでしょうか？

話し合い　その2：

もしパウロが現代の宣教師だったとしたら、人々は彼にどのような「権利」があるべきか、または、あるべきではないかを期待すると思いますか？たとえば、オフィス、車、家などについてどう思うでしょうか？彼はそうした権利をどのように使う（あるいは使わない）と思いますか？また、その判断の基準は何でしょうか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。